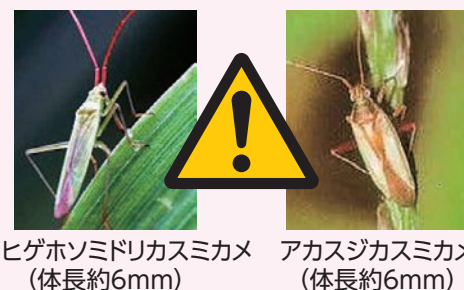


4 カメムシ類による斑点米の発生防止

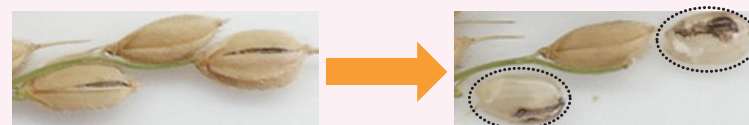
1 カメムシの発生・増殖しにくい環境づくり

- 麦あと等の不作付け地では、大豆、園芸作物、緑肥等を栽培し、雑草の繁茂を抑制
- 畦畔等の雑草地は、**イネ科雑草の穂が出る前に草刈り**を実施



2 割削の発生軽減

- ケイ酸質資材の施用
- 適正な栽培管理による目標とする穂数・籾数の確保



籾が割れると、カメムシが吸汁しやすくなる

3 適正な防除の実施

- **防除効果の高い薬剤を使用**
- 早生品種や大型カメムシが多い地域では、**穂揃期と傾穂期の2回防除を徹底**
- 防除後もカメムシが多い場合は追加防除
- 早生品種の2回目と中生品種の1回目は防除時期が異なるので注意

大型のカメムシが山際を中心に増えています
追加防除など対策の徹底を!



品種ごとの防除時期の違い



基肥量の適正化

- 「てんたかく」粘質土壌を中心とした地力の高い地域や転作あとなどのほ場では、①過剰施肥、②中干しの不徹底等により一部で倒伏がみられる ▶ **倒伏が懸念されるほ場では、基肥を減肥**
- 「コシヒカリ」近年、幼穂形成頃の葉色低下が緩慢となることなどで、籾数が過剰となる傾向 ▶ **過剰籾数が懸念されるほ場では、基肥減肥を検討**

春の土づくり運動(令和5年3月～5月)

- 土壌改良資材の施用により、ケイ酸・アルカリ分・加里等を補給する
- 堆肥や緑肥等有機物の施用により、土壌の肥沃度、保水性・排水性を向上させる
- 深耕により作物の根域を拡大し、肥料の吸収効率を高める

高品質で美味しい
米生産には
土づくりが重要!



ブロードキャストによる
土壌改良資材の散布



マニアスプレッドによる
堆肥の散布

被覆肥料の被覆殻(プラスチック殻)の流出防止について

代掻き後の水田では、被覆肥料の被覆殻が浮遊する場合があります。
用水等に流出しないよう対策を取りましょう。

- ① 代掻きは浅水で行い、作業中・作業後は落水しない
- ② 畦畔沿いに吹き寄せられた浮遊物を除去する
- ③ 水尻や排水路に網を設置する



代掻き時に浮遊する被覆殻



捕集ネットの使用例

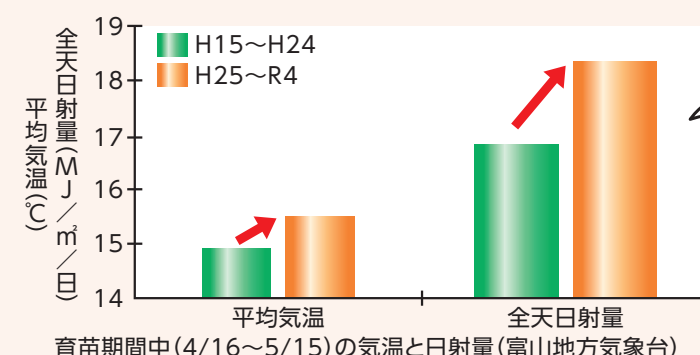
高品質で美味しい富山米を食卓へ 「ほおばる幸せ。富山米」

令和4年産は、高温・高日射や日照不足など変動する気象条件の中、1等米比率は86.5%(令和4年11月末)となっています。
令和5年産は、1等米比率90%以上を目指して、技術対策を徹底しましょう!

技術対策の4本柱

- ① **5月15日を中心とした田植えの確実な実施**
- ② 適正穂数の確保と**過剰な籾数の防止**
- ③ こまめな水管理・施肥による**稲体活力の維持**
- ④ カメムシ類による**斑点米の発生防止**

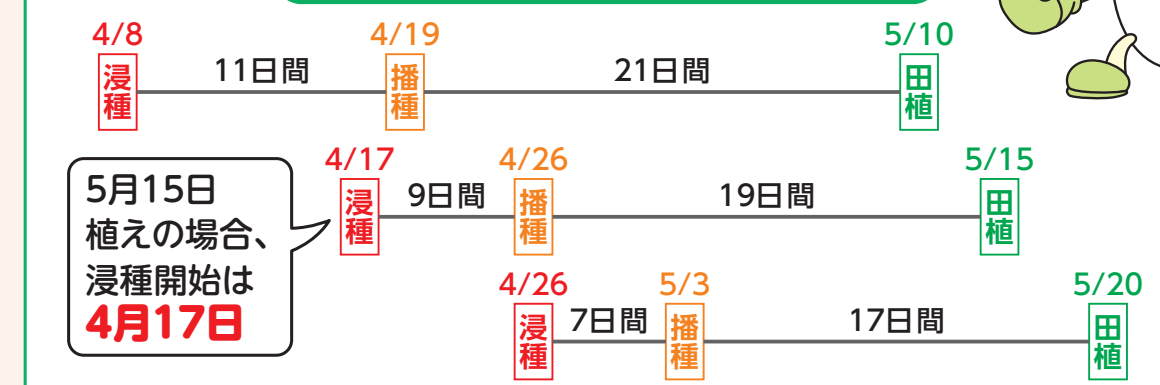
田植日に応じて浸種・播種作業を見直しましょう!



近年、浸種～育苗期間中は
高温・高日射傾向

播種時期だけでなく、
浸種時期を確認しよう!

田植日に合わせた育苗計画の目安



「高品質で美味しい富山米ブランド」確立のための重点技術対策

～ めざせ！1等米比率90%以上～

1 5月15日を中心とした田植えの確実な実施

1 コシヒカリの田植えは5月15日を中心に！

- 出穂後の高温を避けるため、田植えは5月15日を中心の実施

田植日と出穂期及び登熟期間の気温

田植日 (月/日)	出穂期 (月/日)	出穂後20日間の 平均気温(℃)
5/5	7/28	28.0
5/10	7/31	27.8
5/15	8/4	27.6
5/20	8/7	27.2

※出穂期および気温は近年値(H25～R4)を用いた



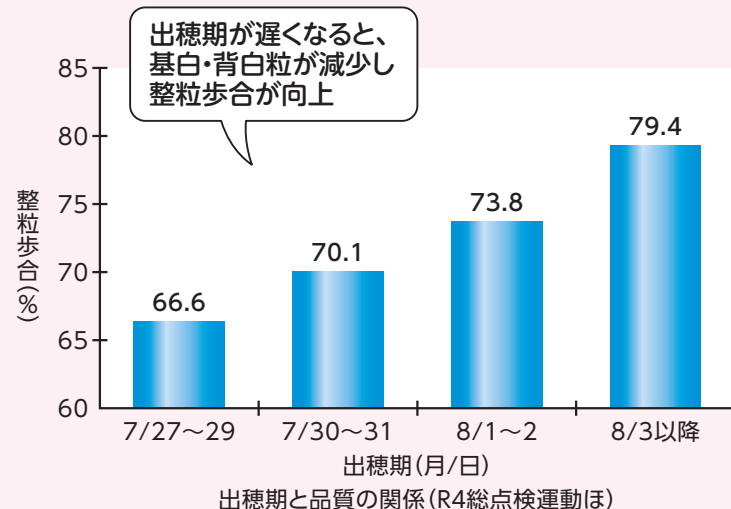
出穂後の高温を回避すれば、基白・背白粒の発生が減少！

近年の田植盛期は5/11頃とやや早め
5/15中心の田植えで高温登熟の回避を!!

出穂後の高温で発生する未熟粒



基白粒 背白粒

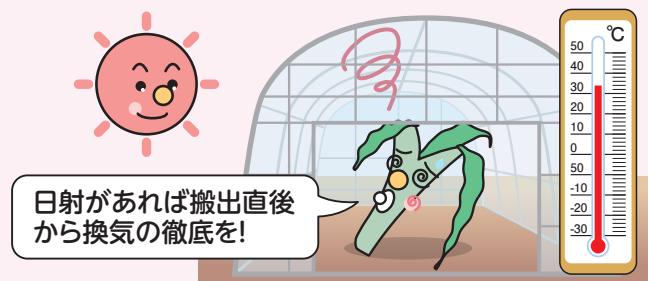


2 田植時期に合わせた播種・育苗を！

- 老化苗を防止し、活力の高い苗を育成するため、**浸種・播種は、あわてずに実施**
- 4月下旬以降は気温が上昇し、苗が長くなりやすいので、**搬出直後から積極的に換気**

育苗期間中の温度管理の目安

苗のステージ	出芽期	緑化期	硬化期
育苗日数	3日	2～3日	13～15日
温度 昼	30℃	25℃以下	
温度 夜	30℃	10℃以上	

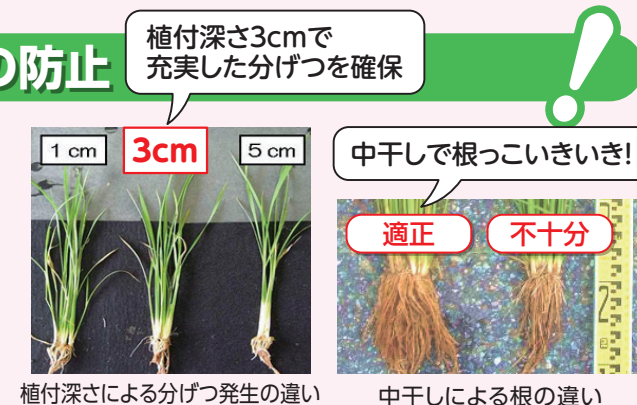


日射があれば搬出直後から換気の徹底を！

2 適正穂数の確保と過剰な籾数の防止

1 初期茎数の確保を！

- 栽植密度70株、植付本数3～4本、植付深さ3cmの徹底**
- 活着後の浅水管理(水深3cm)
- 土壌に応じた基肥窒素の施用
砂壤土3.0～4.0kg/10a
埴壤土1.8～2.6kg/10a



植付深さによる分げつ発生の違い

中干しによる根の違い

2 溝掘り・中干しの徹底を！

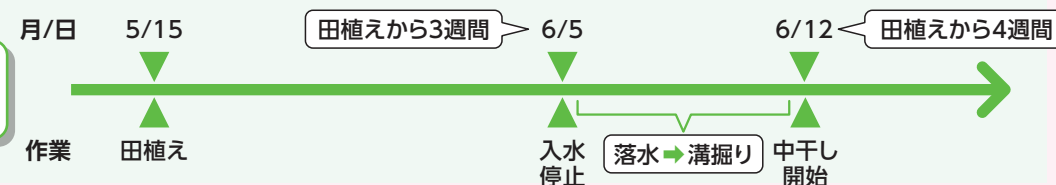
- 6月上旬の**溝掘りの実施**
- 中干しは田植後4週間までに確実に開始**

中干しが遅れると、過剰籾数に

中干し開始日の目安

田植日	入水停止	中干し開始日
5/10	5/31頃	6/7頃
5/15	6/5頃	6/12頃
5/20	6/10頃	6/17頃

溝掘り・中干し実施のイメージ

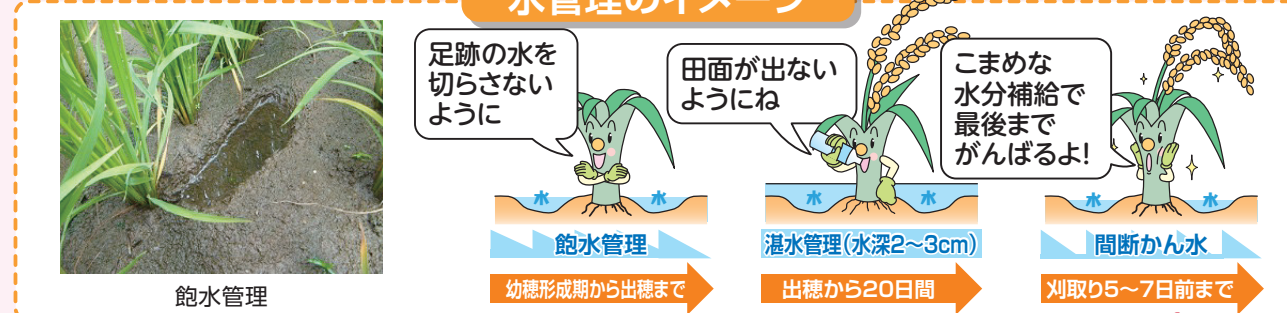


3 こまめな水管理・施肥による稲体活力の維持

1 こまめな水管理を！

- 幼穂形成期以降は**飽水管理**、出穂後20日間は**湛水管理**
- 刈取り5～7日前までは**間断かん水**

水管理のイメージ



2 的確な穂肥施用を！

- 穂揃期の葉色を4.2～4.5(砂壤土は4.5)に誘導**
- 肥効調節型基肥栽培でも、葉色が薄い場合は**追加穂肥を施用**

葉色が薄いと、体力切れでフラフラだ～

